

## 残念無念集

### 1 はじめて自分で

はじめて自分で揚げた凧  
それが急に廻りはじめた  
父は僕の手から糸巻を取ると  
右手で二三回大きくひっぱった  
凧が ゆっくりと左右にゆれて 落ちついてきた  
さあ 大丈夫  
僕に糸巻をかへしてくれるのかと思つてみたら  
父は なほ 凧をもつと高く掲げようとして糸をひいた  
その時 二人の背後から吹き抜けた風が  
父の手に糸巻を残して糸を切った  
こごえたやうな夕焼雲の上に  
はりついた六角形の武者絵  
俺から希望を奪ひ  
小さくなつて見えなくなつた  
父よ あなたは僕の凧を駄目にした

### 2 川岸は

川岸は荒れてゐる  
一本の長い竹は折れて  
梢は水につかつてゐる  
嵐のすぎたあとの川の水を  
飲みつづはてゐる龍の背中  
彼は自分が龍であるかのやうに 身を投げ出してゐる  
背後にはたくさんの竹がいつせいにゆれてゐる  
くちびるを水につけてゐる  
流れは彼の下をにぎりながら流れて行く  
龍はにごつた流れの中にこそ住んでゐるのであらうに  
彼は自分が枯れるのを知つてゐるのか  
彼は黒く変色し 竹ではなくなる  
龍でなんかあるものか  
水は絶え間なく彼の顔をくるみ

自分を折った嵐をおこしたのが自分であるとても思つてゐるのか  
身をふるはせ 彼は 龍のやうに  
誇り高く 見事なくねり方をしてゐる

### 3 夕やみの

夕やみの路傍

君の声が僕をふりかへらせた  
君は君の側の女に言つた  
人ちがひだ 人ちがひだ  
僕も 僕に逢つても知らないふりをしてゐた君を  
人ちがひだと言はれれば さう思ふより仕方ない  
不思議なこともあるものだ  
人ちがひ同士が重なるなんて  
君の太い指が女の腰の赤いドレスをむんずと押して  
もちろん君は僕の方を見もしないで  
女の鼻がはつきりと白く高く  
僕が僕でなかつたとしたら 君は誰とまちがつたのだらうか  
僕に似てゐる男を知つてゐる人 その人は君に似てゐたわけか  
如実に感じたことは 僕は自分の類型のはかなさだ  
僕は自分に言ひきかせた  
人ちがひだ と言ふべきは 僕の方だつたのだ  
僕は一人で歩いてゐたのだ  
足早に去つた君と女の体格  
時間がたつにつれて 僕の気持は荒れてくる  
腰の所の指の形が明確になつてくる